

大会派遣・研修報告書	
1. 大会・研修会	令和3年度全国中学校体育大会 第51回全国中学校バスケットボール大会
2. 研修期間	2021年8月17日(火)～22日(日)
3. 派遣者	下田 大輔(島原)
4. 日程	17日(火) 審判会議 大会前研修 (Web 会議) 18日(水) 移動 長崎県～群馬県 19日(木) 予選リーグ 20日(金) 決勝トーナメント 21日(土) 準決勝・決勝 移動 群馬県～東京都 22日(日) 移動 東京都～長崎県
5. 研修概要・内容	<p>■研修①「インテグリティ」 (公財) 日本バスケットボール協会 審判委員長 宇田川 貴生氏</p> <p>◎コロナ対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・審判員が感染および濃厚接触者認定の可能性がある場合の対応 <ul style="list-style-type: none"> <li>①ご家族、職場同僚に陽性者が発生し感染および濃厚接触者の可能性がある場合 →当該審判員の感染否定および保健所の見解として濃厚接触者認定回避が確認できるまでは割当をしない</li> <li>②ご家族、職場同僚の関係者に陽性者が発生し、ご家族、職場同僚が感染および濃厚接触者の可能性がある場合 →当該ご家族、職場同僚の感染否定および濃厚接触者認定の回避が確認できるまでは割当をしない</li> <li>③ 担当した試合でチーム関係者等に陽性者および濃厚接触者が発生した場合 →フェイスマスク着用により濃厚接触者認定は回避されるはずであるが、保健所の正式な見解が出るまでは割当をしない。ただし自主的な行動制限の依頼はしない。</li> </ul> </li> <li>・重要なポイント <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 報連相の徹底 (速やかに当該者は大会審判責任者へ)</li> <li>2. キャンセル含め連絡できる信頼関係 (このことで不当な取り扱いをしない)</li> <li>3. 事前対応の必要性 (責任者の対応は大変であるが、もし当該審判が原因でクラスターが発生したら、事後対応はそれ以上に大変)</li> <li>4. 審判員を守る(感染元となる審判員が誹謗中傷を受けない為の事前対応)</li> </ul> </li> </ul> <p>◎「JBA インテグリティとしての暴力暴言根絶の取り組みについて</p> <p>※テクニカルファウルは、人格否定ではありません ※TF に対して感情的にならないようにご理解ください</p> <p>&lt;よくあるご意見&gt;</p> <p>Q. 経験・実績のあるコーチに対して TF が吹きづらい A. 若く実績のないコーチになら TF が吹きやすい? 審判はフェアであるべき</p> <p>Q. TF はワーニングをしてから A. 即 TF は当然あります。些細で軽微なものに対してがワーニング</p> <p>Q. 審判のミスなのにテクニカルにする A. それはそれ、これはこれ。イリーガルな振る舞いに対しては TF</p>

◎抗議の取り扱いについて

重大なトラブルを防止するために、2019 競技規則から記載

1. 基本的考え方

①抗議については採用しない。

2. 抗議に繋がる重大なトラブル防止のために取り組むべき対策

①JBA として取り組むべき対策

1) 審判員のレベルアップ

試合におけるスコアおよびクロックを訂正する権限があるため、判定だけでなく、スコア・クロックの管理も含めた T0 との連携に関するマニュアルを作成し研修等で周知徹底していく。

2) T0 のレベルアップ

スコアシートの記載、スコアの表示、クロックの管理等を行う T0 業務がスムーズに遂行できるように、また、T0 技術とともに T0 同士また T0 と審判員との緊密な連携についても示した T0 マニュアルを作成し、研修に向けたカリキュラムを構築する。

②主催団体として取り組むべき対策

大会責任者としてスムーズな大会運営を行うため、T0 育成に向けた研修会の実施、また実際に T0 を行う U18/15/12 補助役員のサポートのため T0 主任の設置および T0 主任研修の実施。そして重大なトラブルが発生した場合の速やかな対応ができる体制作り。

③チーム（コーチ）として取り組むべき対策

試合（大会）のスムーズな進行に協力し、自チームに不利益とならないように、試合（大会）を成立させるため、

1) 速やかにミスに対応できるようにコーチ自身もスコアおよびクロックの管理についての意識を高める。

2) コーチ自身が確認できない場合もあるため、スコアブックを記載するマネージャー等の指導育成をチームで実施。

3) 明らかなミスがあった場合は、最初のボールデッドになった時、速やかに T0 に確認を行う。ただし、プレー続行中に T0 に確認を行うと、T0 が更にミスをする可能性があるため避けなければならない。また、時間が経ってからの確認は審判・T0 ともに確証がない可能性が高くなるため速やかな確認が必要。

とはいえ、審判の責任は重要。

①チーム、コーチから問い合わせがあったら、クルーとしてしっかり対応する。

②T0 は仲間である、高圧的に対応せずリスペクトして連携

③最終的な判断は、審判がおこなわなければならない。

■研修②「群馬全中成功に向けて」

(公財)日本バスケットボール協会 U15担当 加藤 暁生氏

2021 群馬全中のPGCについて

○ 地元審判員との共有事項

- ・自身が全中を成功させるという主体的な取り組み
- ・正しい判定の裏付けは、ベーシックなものの遂行やベーシックなIOTから

○ PGC について

普段からのPGCに加えて、今大会では下記4点を加える。

① 処置ミゼロ

→まずはベーシックなもの、ベーシックなIOTの遂行から

→ミスを起こさないためになにができるか、ミスが起きた時にどう対応するか

② トラベリング

→「JBAプレコーリング・ガイドライン 20210301」→「第2章 バイレーション」

→「1.トラベリング(1)0歩目を適用しないケース」の3つのクリップを確認

③ 「FUL・ショットの見極め」

→タフなショットを決めようとする選手、それを防ごうとする選手

→3or2点、プロテクシューター、キックアウト、ファウルをもらおうとするアタック

④ RFG(Respect for the Game) (含 インテグリティ)

○ TOクルーとの連携

地元の中学生在がTO。ゲーム開始の定刻20分前に審判控室付近でのミーティング。

○ マンツーマンルールについて

- ・ルールの確認：ルールブック p.388 「マンツーマンディフェンスの基準規則」内の p.391 第2節「処置と罰則」、p.396 具体的な対応例を一読。
- ・TOの後ろに旗を持ったマンツーマンコミッショナー(MMC)。
- ・基本的にはMMCの指示に従う。
- ・赤い旗2回目⇨TF、罰則は1ショットとボールポジション。
- ・試合開始10分前、コートにでたらMMCと挨拶を交わす。
- ・ポータルサイト内に資料あり。

○ デイカタイムアウトについて

- ・各ピリオド4分経過後、最初のデットで。30秒間の消毒と給水のタイムアウトあり。

■ 感染予防対策

- ・控室と更衣室にサーキュレーターを導入。
- ・食事の摂り方について、「黙食の推奨」「食事場所の工夫」を行う。
- ・滞在時間の短縮化を行う。(審判後は速やかに着替えを済ませる。)
- ・滞在場所は控え室ではなく「観覧席」等を主な滞在場所とする。
- ・審判控室及び更衣室の消毒、換気の徹底(1回/1時間)を行う。
- ・輸送バスの乗り方「隣同士で座らない」を徹底。※乗車率50%以下
- ・審判控室、更衣室やフロア入口、出口に消毒液配置。入室時の手指消毒の徹底。
- ・ALSOK ぐんまアリーナは、階段の上り専用・下り専用を設定し、交差するリスクの低減がなされていた。
- ・TOの中学生等はフェイスシールドを着用していた。
- ・高崎アリーナは、チーム待機観戦席・チーム応援席・審判観戦席と区切られていた。

■審判

<女子予選Lリーグ>

○西宮浜(近畿2・兵庫) 対 市川三(関東2・千葉)

CC:佐久間奈々氏(岐阜)

U1:下田大輔(長崎)

U2:高橋翔平氏(群馬)

【プレゲームカンファレンス】

- ・ベーシックなメカニクス、ベーシックな IOT の確認
- ・トラベリングの確認→映像で確認
- ・FUL・ショットの見極め
- ・マンツーマンでペナルティでの処置と罰則の確認
- ・メディカルタイムアウトについての確認
- ・インストラクターや映像がない為、振り返りが難しいのでタイムアウト時に情報を共有する。

【ポストゲームカンファレンス】

- ・フリースロー時のリバウンドの位置に占めていないプレーヤーへの意識が低下していたので、今後低下しないようにする。
- ・早すぎず、大きな声でレポートできたので TO との連携もとれていた。

<女子予選Mリーグ>

○開誠館(東海2・静岡) 対 京都精華(近畿11・京都)

CC:久保あしみ氏(ブロック)

U1:阿久沢尚夫氏(群馬)

U2:下田大輔(長崎)

【プレゲームカンファレンス】

- ・1 試合同様に、ベーシックなメカニクス、IOT、トラベリング、FUL、ショット見極め、マンツーマンペナルティでの処置と罰則、メディカルタイムアウト
- ・00B でのヘルプの確認
- ・ウィークサイドの高い位置のコーナーでのセンターの動きを確認
- ・外国人選手へのディフェンスの仕方、外国人選手のオフenseでの攻め方をしっかり見極める。
- ・オールコートディフェンスでのセンターの考え方、見方

【ポストゲームカンファレンス】

- ・この試合は、レフェリーディフェンスができ、しっかり見極めることができていた。
- ・メディカルタイムアウトで指示がメインになっていたチームに、手指消毒、水分補給の声掛けは良かった。
- ・このゲームに限らず、コーチがマンツーマンコミッショナーへ、ゾーンとアピールする場面があり、対応が必要。

<男子決勝トーナメント1回戦>

○津軽(東北・青森) 対 沼田(開催地・群馬)

CC:加藤暁生氏(本部)

U1:下田大輔(長崎)

U2:高田開氏(香川)

	<p><b>【プレゲームカンファレンス】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前試合同様、ベーシックなメカニクス、IOT、トラベリング、FUL、ショット見極め、オールコートでのCの捉え方、OOBでのヘルプの確認。</li> <li>・ウィークサイドの高い位置のコーナーでのセンターの動きで、T.LがローテーションしてCが動いてたら、OOBバックパス等の確認不足になるため、Tがチェックインしたまま、L.Cがローテーションし、Cがチェックインしたのを確認後、TがCポジションへ移動することにより確実な判定へ繋がる。</li> <li>・CサイドからドライブでのCとLのファールを見る所の分担で、Cはコンタクトでのブロック or プッシュ、Lはシュートでの手へのヒット or ノーヒット しっかり見えているものを判定。</li> <li>・OOBで相手の判定を訂正する場合は駆け寄る。ファール等でクルーの意見を聞く場合は、手を挙げて来てもらう。信頼あるコミュニケーションに見える。</li> <li>・クルーのコミュニケーションでタイムアウト等集まった時は、1/3 ずつ何でもいいから思っていることを言う事でクルーでの一体感がでる。ゲームが終わってから意見を言うのではなく、ゲーム中に言って良くする。</li> <li>・EOG、EOQの確認</li> <li>・開催地のゲームを吹く上で、大会運営をしている群馬の人達の注目のゲームだからと最良するのではなく、沼田の方は絶対に逃してはいけないという気持ちで挑まなければならない。</li> </ul> <p><b>【ポストゲームカンファレンス】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・しっかりとクルーのコミュニケーションがとれていたのがPGCで出てきたシチュエーションがあっても、サポートし合い良いクルーワークができていた。</li> </ul> <p><b>■反省・課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まだまだ、ルールブック、プレーコーリングガイドラインの理解不足、理解していてもゲームで活かせていないので、理解を深め、積極的にトライしていく。</li> <li>・クロック管理、ファールしたプレーヤー、ファールを受けたプレーヤーの確認等で、見る習慣、ロズさむ習慣をつけていくことにより、忘れること、見逃すことをなくし処置ミスゼロへ。</li> </ul>
6. 所感	<p>初めての全中派遣で、たくさんの学び・経験をさせていただくことができました。</p> <p>大会前より、群馬県はまん延防止等重点措置の中開催され、体温管理・消毒の徹底・感染防止対策が徹底されていました。</p> <p>今大会で見てきたこと、感じたことを県内でも貢献できればと思います。</p> <p>今回派遣して下さいました、(一社)長崎県バスケットボール協会の皆様にお礼申し上げます。</p> <p>また、コロナ禍での大会成功に向けて多くのご配慮いただきました、群馬県バスケットボール協会の皆様、日本バスケットボール協会の皆様に併せてお礼申し上げます。</p>